



## ハチはさすと自分も死ぬの

### 人をさすハチは少ない

ハチの中でも、針をもっている種類は、そんなに多くありません。人をさすハチは、よく知られているものでは、ミツバチ、アシナガバチ、スズメバチぐらいです。

ハチは、自分の身が危険になったときか、自分の巣を攻められたときでもなければ、人をさすことはありません。しかし、うっかり巣のそばに近寄りすぎると、たくさんのハチのいっせいで攻めを受け、危険です。大きくて気のあらいハチで有名なスズメバチなどは、とくに危険です。さされたところが2～3日はとても痛いし、いちどに、なんびきものハチにさされると、死ぬこともあります。でも、さしたほうのハチは、死んだりしません。

### さすと自分も死ぬのは、ミツバチだけ

ミツバチだけは、さすと自分も死んでしまいます。ミツバチの針は、針に逆さに向いたとげがついていて、さした後、針がぬけないようになっています。そのため、さすとミツバチのおしりの部分がちぎれて、針といっしょに残り、さした相手の体内に、毒を送りつけるしくみになっています。おしりがちぎれたハチは、まもなく、死んでしまいます

(監修・中山 周平)

